

## 彙報

会長 上野善道

### 2008年度第1回常任委員会

日時：2008年4月26日（土）13:00～18:00

場所：東京大学文学部3号館6階言語学研究室

出席者：上野善道（会長）、林 徹（事務局長）、上山あゆみ、風間伸次郎、菊地康人、窪蘭晴夫、田野村忠温、柘植洋一、早津恵美子

オブザーバー：影山太郎（編集委員長）、井上 優（大会運営委員長）、郡司隆男（広報委員長）、三村竜之（事務局長補佐）

#### [報告事項]

##### (1) 科学研究費補助金の交付について

- ・2008年度から2011年度まで年額260万円ずつで申請を行った結果、単年度みの交付が認められ、2008年度の交付額(180万円)が内定したことが報告された。
- ・単年度みの交付が認められたが、複数年度の契約を結ぶことは可能であること、並びに次回申請時に複数年度の申請が可能であることについて報告があった。

##### (2) 学会連合について

- ・学会連合ワーキンググループより経過報告。3月19日（水）に中西印刷にてワーキンググループのメンバー（林徹事務局長、菊地康人常任委員、窪蘭晴夫常任委員、野田尚史委員）と庄垣内正弘顧問で会合が開かれた。
- ・社会学や哲学等、人文社会系の分野でも学会連合が進みつつある実状を承けて、言語学の分野でも学会連合を推進していく必要があるとの提案が、学術会議会員でもある庄垣内顧問からなされ、言語学会としての対応を検討した。
- ・5月20日に日本語学会会長と日本英語学会会長との三人での会合が予定されていることが会長より報告された。まずは

その段階までに連絡が取れている三学会で話を進めていく方針である旨が報告された。

その後、日本語教育学会にも連絡が取れ、5月20日には4学会で打ち合わせをした。

- (3) 日本学術振興会の実地検査について  
実地検査は結局実施されず、今年度内に実施されるかどうかに関しても未定であることが会長より報告された。

##### (4) 各種委員会からの報告

###### ・編集委員会

第133号から執筆者の所属を示す（所属の無い場合は学会事務局気付とする）ように改めたこと、第136号の特集が「言語構造のインターフェイス」に決定したこと、投稿規程の「未発表論文」の定義に関して審議を継続したことについて編集委員長より報告があった。「未発表論文」の定義については今後も委員会において審議を継続する。

###### ・大会運営委員会

2008年度春季大会の準備の進行状況に関して大会運営委員長より報告があった。4月5日に口頭発表その他の採否を決め、プログラムを決定した。郵便事情により採否通知が二通届かないというトラブルがあったが、応募者全員に別途メールにて確認を行うことにしていたため、事なきを得た。

###### ・広報委員会

大会プログラムが学会ホームページで閲覧可能であること、大会ポスターの原稿もホームページ上に掲載する予定であることが広報委員長より報告された。

###### ・危機言語小委員会

危機言語小委員会委員長に代わり会長より報告。梅田博之委員に代わり西岡敏氏が新しく委員に就任した。

###### ・夏期講座小委員会

夏期講座小委員会委員長に代わり会長より報告。8月19日から8月24日にかけて京都大学文学部にて開講予定の夏期講座2008の準備は滞り無く進んでおり、既にポスターの配布も終了している旨が

報告された。

- (5) 2009年度大会開催校について  
 春季大会は神田外語大学（長谷川信子実行委員長）にて6月20日、21日に開催予定である旨が会長より報告された。

[審議事項]

- (1) 2007年度の決算書案について  
 決算書案を審議した。会計監査は5月16日に実施予定。会長と事務局長が中西印刷に出向き、会計監査委員の質問に対応する。
- (2) 2008年度予算案について  
 2008年度予算について常任委員会原案を作成した。
- (3) 日本言語学会会計規程（案）について  
 2007年度第二回常任委員会にて提示された原案に関して、特に文案と構成について意見交換を行った後、了承された。本常任委員会後のメーリングリストにおける議論で、さらに文面を一部修正した。
- (4) 大会運営委員の交代時期について  
 執行部交代直後の春季大会の運営をより順調に進めるために、大会運営委員の交代時期を春季大会終了後にする案が出された。既にメーリングリストで議論が交わされており、本常任委員会では、再度意見交換が行われた後、了承された。
- (5) 次期会長選挙の日程について  
 新執行部の運営をより円滑に始めることを目的に、次期会長の決定時期を早めることが提案され了承された。また、それに伴う選挙日程の繰り上げ、ならびに選挙規則と選挙細則の改訂に関して意見交換を行った。
- (6) 会員名簿の作成について  
 会員名簿の作成について、特にその意義と掲載する情報に関して意見交換がなされた。名簿は作成することが了承された。具体的な掲載事項に関しては、本常任委員会後のメーリングリストでの議論で詳細を決定した。
- (7) 寄贈図書の扱いについて  
 会長より現状について報告があった。そ

れを承けて、今後は寄贈図書を受け入れない方針をとることが会長より提案され、了承された。寄贈図書を受け入れない旨は、改めてホームページ上に公表する予定。

- (8) CIPL次期代表委員について  
 現代表委員である長嶋善郎委員の任期満了により、次回委員会に後任者を推薦することが確認された。代表委員の派遣費用に関しては、学会から援助する方針をとることが会長より提案され、意見交換の後、了承された。
- (9) その他
- ・電子ジャーナルについて  
 『言語研究』の電子ジャーナル化の検討については、次期執行部へ引き継ぐことが会長より提案された後、了承された。
  - ・公益法人化について  
 公益法人化については会長より報告があった。今年度中には体制の整備が間に合わないため、次期執行部へ引き継ぐことが会長より提案され、了承された。
  - ・小委員会の位置付けについて意見交換がなされた。

**2008年度第1回委員会**

日 時：2008年6月21日（土）10:00～12:00

場 所：学習院大学北2号館10階大会議室

出席者：上野善道（会長）、林 徹（事務局長）、井上 優、上山あゆみ、大津由紀雄、荻野綱男、生越直樹、尾上圭介、影山太郎、風間伸次郎、梶 茂樹、菊地康人、金水 敏、工藤真由美、久保智之、窪菌晴夫、熊本 裕、郡司隆男、小泉保、小泉正利、斎藤 衛、坂原 茂、坂本 勉、清水克正、城生佰太郎、杉浦滋子、田窪行則、田野村忠温、柘植洋一、角田太作、津曲敏郎、中川 裕、長嶋善郎（第136回大会実行委員長）、野田尚史、早津恵美子、日比谷潤子、藤代 節、藤本幸夫、三原健一、藪 司郎、湯川恭敏、吉田 豊、鷺尾龍一、渡辺 己（以上44名）

委任状：20名

オブザーバー：庄垣内正弘（顧問），早田輝洋（顧問），新田哲夫（第137回大会実行委員長），佐藤昭裕（会計監査委員），吉田和彦（会計監査委員），三村竜之（事務局長補佐）

#### 〔報告事項〕

- (1) 第136回大会（2008年度春季大会，学習院大学）について  
会長より学習院大学へ謝意が表された後，大会実行委員長の長嶋善郎氏より挨拶があった。
- (2) 第137回大会について  
第137回大会（2008年度秋季大会）が11月29日，30日に金沢大学で開催されることが報告され，大会実行委員長の新田哲夫氏より挨拶があった。また，第138回大会（2009年度春季大会）は神田外語大学（大会実行委員長は長谷川信子氏）で開催予定であることが報告された。
- (3) 2008年度科学研究費補助金について  
2008年度から2011年度まで年額260万円ずつで申請を行った結果，単年度のみ交付が認められ，2008年度の交付額が180万円であったことが会長より報告された。
- (4) 学会連合について  
学会連合に関して，ワーキンググループ内での意見交換や，日本語学会，日本英語学会，日本語教育学会との意見交換など，進展状況について会長より報告があった。
- (5) 各種委員会の活動報告
  - ・編集委員会  
『言語研究』第134号の投稿数，採択率，編集の進行状況に関して報告された。第133号からコミュニケーションを盛んにする意図を込めて各論文の末尾に執筆者の連絡先を記すようにしたことも報告された。また，第136号の特集論文の執筆者を選出中であることも報告された。
  - ・広報委員会  
過去の様々な情報（大会プログラム，大

会開催校，最近の『言語研究』の論文要旨，歴代の役員氏名等）がホームページ上で閲覧可能であることが報告された。

- ・大会運営委員会  
今大会（第136回大会）から発表応募のメ切を3月末ではなく3月20日に繰り上げたが，申し込みの遅れなどのトラブルは生じなかったことが報告された。
  - ・夏期講座小委員会  
次回夏期講座が2008年8月19日から8月24日にかけて京都大学文学部にて開催される予定であることが報告された。また，6月19日時点での受講料振込者数（150人）のほか，開催準備状況に関しても小委員会委員長より報告があった。なお，宿泊所を十分に確保すべく調整中であることも併せて報告があった。
  - ・「危機言語」小委員会  
同じ時間帯に危機言語ワークショップが開催されているため出席できない小委員会委員長に代わり，会長より委員の交代が報告された。梅田博之委員に代わり新しく西岡敏氏が委員として加わる。
- (6) その他：一般競争入札について  
中西印刷一社のみから入札があり，455万円で落札されたことが報告された。

#### 〔審議事項〕

- (1) 2007年度決算および監査結果の報告  
2008年5月16日に佐藤昭裕，吉田和彦両会計監査委員によって適正と認められた2007年度の決算の報告があり承認された。〔別表1〕参照。
- (2) 2008年度予算について  
2008年度予算案を審議し，原案に従って承認した。〔別表2〕参照。
- (3) 日本言語学会会計規程（案）について  
日本言語学会会計規程案を審議し，原案に従って承認した。〔別記1〕参照。
- (4) 大会運営委員の交代次期について  
執行部交代直後の春季大会の運営をより順調に進めるために，大会運営委員の交代時期を春季大会終了後に繰り下げることが提案され，学会会則上会長の指名が

- 優先することを確認した後、承認された。
- (5) 次期会長選挙の日程および選挙規則と選挙会則の改訂について  
 新執行部の運営をより円滑に始めることを目的に、選挙日程の繰り上げが提案され、それに伴う選挙規則と選挙細則の改訂案が会長より提出され、原案に従って承認された。[別記 2, 3] 参照。
- (6) 会員名簿の作成について  
 会員名簿の作成、ならびに作成時の掲載事項について会長より提案があった。審議の後、名簿を作成すること、掲載事項に関しては、各人の選択の幅を残した上で、支障のない限り多くの情報を盛り込めるようにすることで承認された。
- (7) CIPL 次期代表委員について  
 会長より次期代表委員として田窪行則委員が推薦され、承認された。また、代表委員派遣費用に関しては、原則として学会が負担することで承認を得た。
- (8) その他：会費滞納者の処遇について  
 会費滞納者の処遇について意見が交換された。結論は常任委員会に委ねることとなった。

【別表 1】2007 年度日本言語学会決算

自 2007 年 4 月 至 2008 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,985,000	刊 行 費	5,179,335
雑 誌 売 上	1,676,150	発 送 費	469,435
科学研究費補助金	2,100,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	1,428	大 会 関 係 費	3,927,352
預 金 金 利	17,691	委 員 会 費	174,740
大会関係収入	2,007,500	編 集 委 員 会 費	328,288
雑 収 入	34,485	大会運営委員会費	591,276
雑 益	2,410	広 報 委 員 会 費	84,490
		常 任 委 員 会 費	547,640
		「危機言語」小委員会費	298,683
		夏期講座小委員会費	49,680
		事 務 局 費	703,690
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	545,873
		消 耗 品 費	298,619
		雑 費	3,600
		予 備 費	200,000
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立金	700,000
		選挙関係積立金	300,000
収 入 合 計	19,824,664	支 出 合 計	18,796,701
前 期 繰 越 金	3,329,284	次 期 繰 越 金	4,357,247
計	23,153,948	計	23,153,948

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内個人会員	11,710,000
国内維持会員	150,000
国内学生会員	921,000
国内団体会員	735,000
国内賛助会員	30,000
在外個人会員	358,500
在外維持会員	20,000
在外学生会員	60,500
合 計	13,985,000

雑誌売上

三省堂書店	122,850
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	1,467,400
丸善	18,900
その他書店	63,000
事務局販売	4,000
合 計	1,676,150

科学研究費補助金

2,100,000

科学研究費補助金利息

1,428

預金金利

17,691

大会関係収入

133 回大会出店料（1 社）	10,000
134 回大会出店料（1 社）一日のみ	5,000
134 回大会出店料（7 社）	70,000
134 回大会出店料（1 社）2 スペース	20,000
135 回大会出店料（1 社）一日のみ	5,000
135 回大会出店料（6 社）	60,000
134 回大会予稿集売上	1,235,000
135 回大会予稿集売上	582,500
111 ～ 131 回大会予稿集売上	20,000
合 計	2,007,500

## 雑収入

第 131 号別刷り	17,585
第 132 号別刷り	14,150
予稿集コピーサービス	950
EMS 発送費回収	1,800
合 計	34,485

## 雑益

前年度未払金の超過分処理	2,410
--------------	-------

## ◇支出内訳（単位：円）

刊行費 内 訳	印刷部数		各号共に 2,400 部
	132 号 (200 ページ)	133 号 (240 ページ)	計 (440 ページ)
印刷費	2,333,100	2,795,100	5,128,200
抜刷代	28,980	22,155	51,135
合 計	2,362,080	2,817,255	5,179,335

※割付・校正料は印刷費に含む

## 発送費

『言語研究』 発送料	131 号	48,075
	132 号	195,250
	133 号	226,110
合 計		469,435

## 事務委託費

4,284,000

2007 年 4 月分～2008 年 3 月分  
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

## 大会関係費

内 訳	第 134 回	第 135 回	計
プログラム印刷費	93,450	94,500	187,950
ポスター印刷費	102,000	116,700	218,700
出欠葉書印刷費	24,150	24,150	48,300
プログラム発送費	185,340	187,990	373,330
大会費	480,420	573,822	1,054,242
予稿集印刷費	917,700	773,850	1,691,550
	(700 部)	(400 部)	
予稿集抜き刷	68,250	68,250	136,500
講師謝金	136,780	80,000	216,780
合 計	2,008,090	1,919,262	3,927,352

**委員会費**

通信費	36,240
会議費	128,000
資料印刷費	10,500
合 計	174,740

**編集委員会費**

通信費	64,023
会議費	21,765
旅費	137,000
アルバイト費	105,500
合 計	328,288

**大会運営委員会費**

通信費	14,975
会議費	48,891
旅費	527,410
合 計	591,276

**広報委員会費**

通信費	1,260
アルバイト費	83,230
合 計	84,490

**常任委員会費**

旅費	547,640
合 計	547,640

**「危機言語」小委員会費**

通信費	6,105
会議費	9,918
旅費	200,170
謝金	60,000
文具・ソフト代	22,490
合 計	298,683

**夏期講座小委員会費**

通信費	840
会議費	10,000
旅費	38,840
合 計	49,680

**事務局費**

旅費	235,690
事務局長補佐	120,000
経費補助	348,000

---

合 計	703,690
-----	---------

**CIPL 負担金**

CIPL2007 年度負担金	110,000
----------------	---------

---

合 計	110,000
-----	---------

**通信費**

切手購入	49,600
ビジネス Web 使用料	26,460
会費請求・督促状送料	250,837
カード手数料・送金手数料	36,991
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	74,500
大会関係送料	102,170
その他（文科省提出書類発送等）送料	5,315

---

合 計	545,873
-----	---------

**消耗品費**

文房具（領収証等）購入費	26,669
振替用紙・会費納入願い等印刷費	52,500
封筒印刷費	219,450

---

合 計	298,619
-----	---------

**雑費**

リサイクル溶解サービス利用料	3,600
----------------	-------

---

合 計	3,600
-----	-------

**予備費**

『言語研究』表紙デザイン権利譲渡に関わる費用	200,000
------------------------	---------

---

合 計	200,000
-----	---------

**(基金へ繰入)**

名簿作成積立金	700,000
選挙関係積立金	300,000

---

合 計	1,000,000
-----	-----------

◇ 2007 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	13,000,000	13,985,000	985,000
雑誌売上	500,000	1,676,150	1,176,150
科学研究費補助金	2,100,000	2,100,000	0
科学研究費補助金利息	0	1,428	1,428
預金金利	1,000	17,691	16,691
大会関係収入	1,600,000	2,007,500	407,500
雑収入	10,000	34,485	24,485
雑益	0	2,410	2,410
収入合計	17,211,000	19,824,664	2,613,664
前期繰越金	3,329,284	3,329,284	0
合計	20,540,284	23,153,948	2,613,664

支出

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	5,466,429	5,179,335	287,094
発送費	500,000	469,435	30,565
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	3,600,000	3,927,352	△ 327,352
委員会費	250,000	174,740	75,260
編集委員会費	600,000	328,288	271,712
大会運営委員会費	900,000	591,276	308,724
広報委員会費	500,000	84,490	415,510
常任委員会費	600,000	547,640	52,360
「危機言語」小委員会費	300,000	298,683	1,317
夏期講座小委員会費	200,000	49,680	150,320
事務局費	800,000	703,690	96,310
C I P L 負担金	110,000	110,000	0
東洋学（アジア研究） 連絡協議会運営分担金	10,000	0	10,000
通信費	700,000	545,873	154,127
消耗品費	300,000	298,619	1,381
雑費	19,855	3,600	16,255
予備費	400,000	200,000	200,000
(基金への繰入)			
名簿作成積立費	700,000	700,000	0
選挙関係積立費	300,000	300,000	0
支出合計	20,540,284	18,796,701	1,743,583
次期繰越金	0	4,357,247	△ 4,357,247
合計	20,540,284	23,153,948	△ 2,613,664

## ◇資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
事務局		前受会費	
現金	179,909	国内個人	171,500
みずほ銀行口座	2,341,575	国内学生	84,000
郵便振替口座	4,120,910	国内団体	21,000
カード	8,300	在外個人	25,500
本部事務局		在外学生	16,500
事務局口座	207,579	前受購読料	195,300
常任委員会口座	39,534	未払金**	3,804,465
「危機言語」小委員会口座	1,317		
大会運営委員会口座	308,988		
未収金*	1,467,400	次期繰越	4,357,247
計	8,675,512	計	8,675,512

\* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2007年度決算の未収金の内訳は以下の通り

内 訳	金 額
『言語研究』売上げ(松香堂取次分)	1,467,400
合計	1,467,400

\*\* 未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目。

2007年度決算の未払金の内訳は下記の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』第131号別刷り印刷費	37,590
『言語研究』第132号別刷り印刷費	28,980
『言語研究』第133号印刷費	2,795,100
発送費	226,110
別刷り印刷費	22,155
事務委託費3月分	357,000
大会プログラム発送費	297,180
大会予稿集発送費	40,350
合計	3,804,465

基金 損益計算書

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	10,053,035	一般会計へ支出	0
一般会計より繰入	1,000,000		
定期預金金利	7,559		
収入合計	11,060,594	支出合計	0
		次期繰越金	11,060,594
計	11,060,594	計	11,060,594

基金 資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	7,250,000	積立金	11,060,594
京都銀行定期預金口座	3,810,594		
計	11,060,594	計	11,060,594

。基金内訳（銀行別）

(単位：円)

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	043	2007年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	042	2007年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	041	2006年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	040	2006年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	401,052
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	019	2000年度危機言語プロジェクト積立金	200,000
みずほ銀行	014	1999年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子積立分*	9,542
計			11,060,594

\* 京都銀行定期（預金番号 002）に一括積立の 2004 年度の 3 種の積立金の利息

## 【別表 2】2008 年度日本語学会予算

自 2008 年 4 月 至 2009 年 3 月 (単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,663,637
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	1,800,000	事 務 委 託 費	4,284,000
預 金 金 利	2,000	大 会 関 係 費	4,000,000
大会関係収入	1,600,000	委 員 会 費	200,000
夏期講座関係収入	1,000,000	編 集 委 員 会 費	600,000
雑 収 入	20,000	大会運営委員会費	900,000
基金からの繰入	2,200,000	広 報 委 員 会 費	500,000
		常 任 委 員 会 費	600,000
		「危機言語」小委員会費	300,000
		夏期講座小委員会費	300,000
		事 務 局 費	700,000
		危機言語シンポジウム費	300,000
		夏 期 講 座 費	1,200,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	600,000
		消 耗 品 費	300,000
		雑 費	21,610
		名 簿 作 成 費	2,100,000
		選 挙 関 係 費	900,000
		予 備 費	400,000
取 入 合 計	20,122,000	支 出 合 計	24,479,247
前 期 繰 越 金	4,357,247	次 期 繰 越 金	0
合 計	24,479,247	合 計	24,479,247

**【別記1】 日本言語学会会計規程**

第1条（目的）

日本言語学会の会計処理のための必要な事項を取り決め、もって学会の収支および財産の状態を明らかにし、会員より付託された資金のすべてが日本言語学会会則第2条に定める目的に従い有効に使用されるよう、日本言語学会会計規程を定める。

第2条（会計責任者）

会計責任者は会長とする。

第3条（経理担当者）

経理担当者は事務局長とする。ただし、科学研究費補助金の経理については、別とする。

第4条（科学研究費補助金の経理）

科学研究費補助金は、専用の会計帳簿を作成して管理し、他の資金と混用してはならない。

2 科学研究費補助金の経理については、専任の常任委員を定める。

3 科学研究費補助金の交付を受けた場合は、専用の銀行口座を開設し、助成期間が終了する直前に銀行口座を解約する。

第5条（予算）

会長は、予算原案を作成し各年度の第1回委員会の審議に付する。委員会で承認された予算は、会員総会に報告される。

第6条（会計手順）

一切の取引は領収証等の会計処理証拠書類に基づいて処理し、会計帳簿に記帳する。

第7条（決算）

経理担当者と科学研究費補助金執行担当の常任委員は、それぞれ決算書原案を会長に提出し、会長の決定に従って決算書を作成する。決算書及び関係書類は、学会内会計監査委員による監査を受け、委員会の承認を経たのち、会員総会に報告される。

第8条（会計関係書類の保管期間）

会計関係書類は5年間保管する。保存期間は、会計年度終了日の翌日から起算する。保存期間が経過した帳簿書類は、会長の承認を受けて処分する。

第9条（会計業務の委託）

会長は会計業務の一部を他の者に委託することができる。

第10条（金融機関との取引及び印鑑管理）

預金の名義人は会長とする。

2 出納に使用する印鑑は、会長が保管し押印するものとする。

3 前項の定めにかかわらず、会計監査委員全員の承認があれば、会長は印鑑の保管と押印を他の者に委託することができる。ただし、金融機関との取引を開始、または廃止するときは、会長の承認を受けなければならない。

（2008年6月21日委員会承認）

## 【別記2】 日本語学会選挙規則

(旧)

1 会長、編集委員長、会計監査委員、委員は、所定の手続きによって、個人会員の互選により選出する。選出は、選挙のある年の前年の11月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。  
(以下、変更ないため省略)

(新)

1 会長、編集委員長、会計監査委員、委員は、所定の手続きによって、個人会員の互選により選出する。選出は、選挙のある年度の10月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。  
(以下、変更ないため省略)

(2008年6月21日委員会可決)

## 【別記3】 選挙細則

(旧)

(項目 A 省略)

B. 投票が無効になる場合

- 1 大封筒を開封する前に無効になる場合  
(項目 a) から d) まで省略
- e) 投票者が選挙権を有しない場合(注1)  
(項目 2 省略)
- 3 小封筒を開封した後に無効になる場合  
(項目 3.1 省略)

3.2 一部が無効になる場合

(項目 f) から i) まで省略)

- j) 被選挙権を有しない者(注2)の姓名を記入した場合  
(項目 k) から m) まで省略)

(項目 C 省略)

D. 選挙管理上の事務的注意

(項目 1 から 5 まで省略)

- 6 会員に投票用紙と選挙人名簿を送るとき、次のことを知らせる。

(項目 a) と b) を省略)

- c) 委員候補の割当地区は、会員原簿の住所による。
- d) 本年○月○日までに投函する。(当日消印のものは有効)

(項目 e) 省略)

注1) 選挙権を有しない場合とは、次の者の場合である。

- 1 個人以外の会員
- 2 外国在住の会員(当年度、11月末日現在の会員原簿の住所による)
- 3 当年度の会費をその年度の11月末日までに完納していない個人会員

(新)

(項目 A 省略)

B. 投票が無効になる場合

- 1 大封筒を開封する前に無効になる場合  
(項目 a) から d) まで省略)
- e) 投票者が選挙権を有しない場合(注)  
(項目 2 省略)
- 3 小封筒を開封した後に無効になる場合  
(項目 3.1 省略)

3.2 一部が無効になる場合

(項目 f) から i) まで省略)

- j) 被選挙権を有しない者(注)の姓名を記入した場合  
(項目 k) から m) まで省略)

(項目 C 省略)

D. 選挙管理上の事務的注意

(項目 1 から 5 まで省略)

- 6 会員に投票用紙と選挙人名簿を送るとき、次のことを知らせる。

(項目 a) と b) を省略)

- c) 委員候補の割当地区は、当年度10月末日現在の会員原簿の住所による。
- d) ○年○月○日までに投函する。(当日消印のものは有効)

項目 e) 省略)

注) 選挙権・被選挙権を有しないのは下記の者である。

- 1 個人以外の会員
- 2 外国在住の会員(当年度10月末日現在の会員原簿の住所による)
- 3 学生会員

4 学生会員

注2) 被選挙権を有しない者とは、次の者である。

- 1 個人以外の会員
- 2 外国在住の会員（当年度、11月末日現在の会員原簿の住所による）
- 3 当年度の会費をその年度の11月末日までに完納していない個人会員
- 4 学生会員  
ただし事務局は会費未納者に対し、未納額をその年度の10月中に通知するものとする。

- 4 当年度の会費をその年度の10月末日までに完納していない個人会員。ただし事務局は会費未納者に対し、未納額をその年度の9月中に通知するものとする。

(2008年6月21日委員会可決)

**2008年度第1回「危機言語」小委員会**

日時：2008年6月21日（土）13:15～15:00

場所：学習院大学西2号館10階大会議室

出席者：遠藤 史，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，佐々木冠，笹間史子，白井聡子，白石英才，田村すゝ子，千葉庄寿，角田太作，稗田乃（計12名）

**(1) 報告事項**

- ・第136回大会におけるワークショップの準備状況について

同じ6月21日（10:00～12:00）におこなわれた「危機言語」小委員会企画ワークショップ「関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3」の開催状況について，企画代表者の委員長から報告がなされた。これに対し，委員からは，特に，今年度から初めて設定された時間帯ではあったが，200名ほどの参加者を得たことは，本小委員会の活動の進展のひとつの成果として評価できるという意見が上がった。

- ・会計決算・予算に関する報告について  
2007年度の会計決算ならびに2008年度の予算についての報告が委員長と笹間委員からなされた。

**(2) 審議事項**

- ・第137回大会における特別展示について  
次回第137回大会における特別展示に向けての準備状況が遠藤委員から報告された。現在，山田祥子氏（ウイльта語），山田敦士氏（バラウク・ワ語）からは参加の承諾をえているが，残りの二人については，各委員が院生を中心に打診することで合意された。

2008年11月に開催される秋季大会における「危機言語」小委員会主催の特別展示について，準備状況が担当の遠藤委員から報告された。

- ・シンポジウムについて

年度末（2009年2月頃）に一般への啓蒙を目的として開催するシンポジウムの具体的なテーマや講演者について検討された。その結果，日本国内の危機言語で

あるアイヌ語，琉球語ならびに危機に瀕する方言を取り上げ，その保存と復興をテーマにすることで合意された。場所は東京大学文学部の予定。参加者については，今後各言語・方言の研究者の中から選抜する予定である。

**2008年度第1回夏期講座小委員会**

日時：2008年6月20日（金）16:00～19:45

場所：学習院大学北2号館10階大会議室

出席者：三原健一，西光義弘，荻野綱男，堀川智也，橋本喜代太，山東 功（実行副委員長）

**(1) 夏期講座2008の運営について**

2008年8月19日から24日にかけて京都大学で開催される夏期講座2008に関し，橋本実行委員長から提示された資料に基づき，6月19日現在における受講料振込者数（約150名），使用教室，「夏期講座ハンドブック」，ナイトセッション，開催期間中のアルバイト学生数，懇親会，その他の具体的な運営方法について確認した。

**(2) 今後の夏期講座について**

夏期講座参加者アンケートで要望が多かった，関東・関西以外の地方での開催について意見交換を行い，夏期講座2010の第一候補として北海道での開催を検討することとした。

第 136 回大会

期 日 2008 年 6 月 21 日 (土)・6 月 22 日 (日)

会 場 学習院大学

「危機言語」ワークショップ 6 月 21 日 10:00 ~ 12:00

関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3

企画 日本語学会「危機言語」小委員会

日本語関係節主要部の統語と意味

ユーマ語族における主要部内在型関係節

ポー・カレン語の 3 種の関係節—「後置型」「前置型」「標識介在型」—

コリヤーク語の分詞による関係節と格標示

司会 呉人 恵  
加藤 重広  
市橋久美子  
加藤 昌彦  
呉人 恵

公開講演 6 月 22 日 9:40 ~ 11:45

(1) 内省実験から見える文法

(2) 「コーパスから見える文法」

上山あゆみ  
大名 力

公開シンポジウム 6 月 22 日 13:30 ~ 16:30

Symposium: Morphology and Its Neighboring Areas

Chair: Taro KAGEYAMA

Discussants: Yo MATSUMOTO, Yoko SUGIOKA,

Hideki KISHIMOTO, Yoko YUMOTO

Construction morphology

Geert BOOIJ

Searching for universals in compounding

Sergio SCALISE

Dvandva [V V] compounds: A linguistic link between Greece and East/South-East Asia

Angela RALLI

Semantic effects of left-hand elements on right-hand head structure

Taro KAGEYAMA

口頭発表 6 月 21 日

◦ A 会場

(A 1) 13:00 ~ 契丹小字で表記された漢字音から見た契丹語音韻体系の研究 武内 康則

(A 2) 13:35 ~ 沖縄方言の衰退と復活—GIDS という枠組みから— 新里 卓

(A 3) 14:15 ~ 「修飾」という概念は普遍的か?—英語とベルシャ語とヘブライ語と Sidaama (Sidamo) 語の比較— 河内 一博

(A 4) 14:50 ~ 「言語構造のワールドアトラス (WALS)」を使用した言語の多様性の視覚化—格を持たない言語の文法特徴— 野瀬 昌彦

ハンス・ヨルグ・ビビコ

◦ B 会場

(B 1) 13:00 ~ 現代日本語の動作事象 (activity events) について 小西 正人

(B 2) 13:35 ~ 日本語の形容詞派生動詞に関する統語的分析 長谷部郁子

(B 3) 14:15 ~ 日本語の複合名詞に関する考察 白杵 岳

(B 4) 14:50 ~ 日中英結果構文と非対格仮説—中国語結果構文を中心に— 崔 玉花

◦ C 会場

(C 1) 13:00 ~ ヒトの言語産出とコーパスの頻度はどのくらい類似しているか 玉岡賀津雄

- |        |         |  |   |
|--------|---------|--|---|
|        |         |  | 木山 幸子   |
|        |         |  | 宮岡 弥生   |
| (C 2)  | 13:35 ~ | 知覚マーカーとしての「てきた」について  | 鈴木 基伸   |
| (C 3)  | 14:15 ~ | 日本語の助動詞ハズダとワケダの意味と用法   | 齊藤 学  |
| (C 4)  | 14:50 ~ | 文脈的制約の再構築による前提の特定—助詞モと文脈依存的類義性—  | 首藤佐智子<br>原田 康也  |
| (C 5)  | 15:40 ~ | 知覚動詞の他動性とアスペクト—意味拡張と身体性の観点から—  | 高嶋由布子   |
| (C 6)  | 16:15 ~ | 定型表現の再分析とゆらぎ—慣用表現の変形からみる多義—  | 土屋 智行   |
| (C 7)  | 16:55 ~ | 副詞「決して」の歴史的変遷—認知言語学的分析—  | 高橋 光子   |
| (C 8)  | 17:30 ~ | 述語によって要求される「名詞のコト」形の意味   | 金 英周<br>酒井 弘  |
| ◦ D 会場 |         |  |   |
| (D 1)  | 13:00 ~ | 等位接続と使役文   | 壺岐 勝  |
| (D 2)  | 13:35 ~ | 間接疑問縮約構文の非移動分析   | 木村 博子   |
| (D 3)  | 14:15 ~ | 主格目的語の認可領域   | 松井 晴子   |
| (D 4)  | 14:50 ~ | 全称量化, 否定極性, 添加表現の「も」   | 小淵-Philip 麻菜  |
| (D 5)  | 15:40 ~ | Two Types of Nominative Objects in Japanese  | Fumikazu NIINUMA<br>Shigeki TAGUCHI                   |
| (D 6)  | 16:15 ~ | An ANOVA analysis of the nominative/genitive alternation in multiple nominative constructions in modern Japanese | Hideki MAKI<br>Kazushige TAKAHASHI<br>Toshiro UMEZAWA |
| (D 7)  | 16:55 ~ | The <i>mar</i> “as” construction in modern Irish and its theoretical implications                                | Dónall P. Ó BAOILL<br>Hideki MAKI                     |
| ◦ E 会場 |         |  |   |
| (E 1)  | 13:00 ~ | 文処理における情報構造と統語構造の交互作用について  | 今村 怜<br>小泉 政利   |
| (E 2)  | 13:35 ~ | 日本語の文理解におけるアスペクト情報の処理  | 龍 盛艶<br>小野 創<br>酒井 弘                                  |
| (E 3)  | 14:15 ~ | Right Node Raising 構文における統語依存情報減衰効果  | 高橋 慶<br>横山 悟<br>神原 利宗<br>吉本 啓                         |
| (E 4)  | 14:50 ~ | 文理解を支える下位処理—単語認知と作業記憶—   | 横山 悟<br>高橋 慶<br>神原 利宗<br>宮本 正夫<br>吉本 啓<br>川島 隆太       |
| (E 5)  | 15:40 ~ | 「だけ」が含まれる否定文の解釈—子供は統語的情報を用いるのか?—   | 野地 美幸   |
| (E 6)  | 16:15 ~ | 幼児による三項動詞構文の理解と格助詞について   | 磯野 将典   |

(E 7)	16:55 ~	日本語における空主語文の処理方略について—児童の言語習得の視点から—	鈴木 孝明 隈上 麻衣
(E 8)	17:30 ~	左側節境界の設定における否定呼応副詞の影響	曜 勇 坂本 勉 村岡 諭 坂本 勉
◦ F 会場			
(F 1)	13:00 ~	サハ語（ヤクート語）の二重格構文	江畑 冬生
(F 2)	13:35 ~	ウイリタ語民話資料における伝聞形式と証拠性	山田 祥子
(F 3)	14:15 ~	チャック語における形容詞について	藤原 敬介
(F 4)	14:50 ~	存在否定と経験否定—タイ語石碑文の否定表現—	高橋 清子
(F 5)	15:40 ~	日本語とカザフ語のオノマトベ語彙の多義性に ついて	サディグル エルドス
(F 6)	16:15 ~	オノマトベの「特異性」再考—音韻と意味の接点—	秋田 喜美 竹安 大
(F 7)	16:55 ~	アルファベット複合語から見たデンマーク語複合語ア クセントと意味制約	三村 竜之
◦ G 会場			
(G 1)	13:00 ~	「結果状態」を表す韓国語のテンス・アスペクト形式 -ess- と -e iss- の使い分け	崔 榮殊
(G 2)	13:35 ~	「行く」「来る」と「가다 kata」「오다 ota」の選択要因	韓 京娥
(G 3)	14:15 ~	飲食動詞構文の日中対照研究	許 永新
(G 4)	14:50 ~	指示詞と視点—日中韓比較研究—	中本 武志 李 美賢 郭 玉英
(G 5)	15:40 ~	中国朝鮮語の2音節名詞のアクセント	河須崎英之
(G 6)	16:15 ~	朝鮮語三陟方言の名詞アクセント体系	宮瀬 誠
(G 7)	16:55 ~	韓国語統営市方言のアクセント体系	姜 英淑

ワークショップ 6月21日 15:40 ~ 17:40

◦ A 会場			
	言語の構造的多様性のなかでの品詞分類	企画・司会	中山 俊秀
	今どきの品詞分類—議論の出発点として—		中山 俊秀
	スライアモン・セイリッシュ語の名詞と動詞の分類について		渡辺 己
	日本語から考える品詞の問題		加藤 重広
	孤立的言語における品詞分類の難しさ—パラウク・ワ語を例に—		山田 敦士
◦ B 会場			
	日本語における前提導入表現とその同定手法	企画	片岡喜代子
		司会	戸次 大介
	日本語における前提概念の同定		戸次 大介
	否定関連表現と前提		片岡喜代子
	証拠推量表現と前提		齊藤 学
	言語処理から見た前提研究の可能性		川添 愛

ポスター発表 6月22日 11:20～13:00

。H会場

韓国語の話しことばと書きことばにおける音素、音節、音節結合  
の出現頻度

李 在鎬

玉岡賀津雄

林 炫情

日本語における「島」の効果の実験的記述

時本 真吾

「略字・俗字」の使用に関する意識調査

高田 智和

鐘水 兼貴

幼児の単一項文の理解からみた格助詞理解と作動記憶容量のかか  
わり

水本 豪

流体の経路表現の意味拡張について

鈴木 幸平

Ainu causatives

Anna BUGAEVA

日本語の移動動詞の意味変化と継続アспект

澤田 淳

支援動詞構文における事態性名詞と動詞との項共有と連結性—

藤井 聖子

『日本語コーパス』を用いた分析—

上垣 渉

◇退 会

国内通常会員	42 名
国内学生会員	4 名
国内団体会員	3 件
在外通常会員	2 名